

からの時代においても更なる成長を実現できるよう準備を進めています。

投資先企業が持つ先端技術のアライアンスパートナーへの拡散事例も増加してきました。AI関連領域における最先端技術を有する米国DataRobot社とは、共同で地域金融機関におけるAI利活用とAIリテラシー向上を支援しているほか、ウェルスナビ(株)が提供するロボアドバイザー「WealthNavi

(ウェルスナビ)」に関しては(株)横浜銀行を含む複数の会社とのコラボレーションを実現させました。また、BASE(株)と連携して、地域金融機関の取引先へ低コストでのネットショップ開設を推進しています。これらは地域金融機関や地域企業の収益力強化、ひいてはSBIグループの地方創生戦略の推進にも繋がっています。

3 デジタル金融分野におけるグローバル展開

創業以来、SBIグループはインターネットの急速な普及とともに成長してきましたが、特にウェブを活用してつくり上げた金融生態系を、SBIグループではフィンテックの初期段階である「フィンテック1.0」としています。次いで、AIやビッグデータ、IoT、ロボティクス等々の要素技術やブロックチェーンを、完成したウェブベースのインターネット金融生態系上で活用することを「フィンテック1.5」と定義しており、我々は現状この段階にあります。そして今後3～5年程で、既存のウェブを必ずしも必要としない、ブロックチェーンを基盤とした、これまでと次元の異なる「フィンテック2.0」の世界が拡大し、デジタルアセットスペースに飛躍的な進化がもたらされると考えています。SBIグループはこの時流を捉え更なる成長を遂げるべく、既に様々な事業で準備を進めています。

例えば、このフィンテック2.0の領域に該当するものとしてセキュリティトークン(ST)が挙げられます。SBIグループはこのSTの発行・流通市場の創出に力を入れています。STとは、株

式や債券などの有価証券や、不動産などの実物資産をトークン化してブロックチェーン上で管理するもので、2019年5月に成立した改正金融商品取引法および改正資金決済法により、STに対しても金融商品取引法が適用されることとなりました。2019年10月に設立された自主規制団体(一社)日本STO協会を通じて、国内の業界ルールを整備するなど、健全なST発行市場の発展に尽力しています。また、STの流通市場を創出するべく、前述の通りODXの運営するPTSでSTを取扱う予定であるほか、ODXとドイツのBörse Stuttgartグループ、スイスのSIXグループ、およびシンガポールでSIXグループとSBIグループが共同設立を目指すデジタルエクステンジ等々との相互接続を行うことで、STを取扱う世界最大級のグローバルコリドーの形成を目指します。

また、世界初のデジタル資産銀行の営業を行うスイスのSygnum Bankとの資本業務提携を通じて、国内初のデジタルアセット銀行創設に向けても準備を進めています。

SBIグループが考えるフィンテックの進化

